ないのである。然るに記憶力の強弱は元々其の人の天稟に基づくことが頗大である。即ち甲の人が數回練習して後やつと記憶する樣なことを、乙の人は僅に一回で容易に記憶することが出來る。時によると、一生懸命になつて苦心慘憺してやつと記憶してゐても亦忽ちにして忘却する者もあり、之に反して何等の勞苦を費さずして一ぺんに記憶した結果が中々容易に忘却せない者もある。茲になると全く其の人の天稟に依ると云ふの外はないのである。であるから平生は何等の考査をもしないでゐて只一學期の末になつてから一ぺんに纏めて考査するが如きは、慥に其の天稟の才を賞揚するものと殆ど同一の結果になるのである。

而も其の天稟の才と云ふのも僅に記憶力と云ふ一つの能力の檢査に歸するが如きは甚だ不穩當なものであると云ふの外ない。殊に器械的暗記を無暗に強ひるが樣な試驗の方法に至つては一層其の弊害が大であると云はねばならぬ。言ひ換へれば器械的暗記力のみが殊に強いと云ふ樣な天稟の者のみが常に優秀な成績を示して、しきりに賞揚せられるのに反して他の能力が割合によく發達し、且一生懸命になつて、しきりに苦心慘憺する者は却つて常に不良の成績を示してしきりに抑制せられると云ふ變てこな一現象を呈することになるのである。

二　眞の實力はいかにしてもられるか

器械的に暗記してゐるものはまだ眞の實力ではない。何となれば器械的暗記は理解の助けを藉りてゐないのであるから、何等かの調子で一たび忘却してしまつたら、またと浮んで來る見込みは殆ごない。浮んで來る見込みのないものは、まだ眞に自分の物となつてゐるとは云はれない。即ち眞の實力となつてゐないからである。

また器械的に暗記してゐるものは自由自在に之を活用することが出來ない。自由自在に活用することの出來ないものはまだ眞に自分の所有であるとは云はれない。之が即ち眞の實力になつてゐないからである。器械的暗記によつて強ひて覺えたものは、一たび其の器械的の順序なり、型なり、排列なりを變へられたり或は其の中途から問はれたり、或はそを倒に問はれたりしたら、もう答へることは出來ない。之はまだ眞に自己の所有即ち實力になり切つてゐない證據である。

然らば吾人はいかにして眞の實力を檢することを得るかと云ふと、そは兒童がいかなる程度までに之を理解してゐるかを調べて見る事が其の一つの方法である。即ち或史實をいかなる程度までに之を理解してゐるかを檢するのである。今一つは新しい史實に對する解釋の力がどれ位ついてゐるかを檢するのである。之は即ち史的見識の活用である。いかなる程度まで活用する力が養はれてゐるかを調べるのが即ち之である。要するに第一に理解の力を見ること、第二に活用の力を見ることゝが眞の實力を見る方法である。徒らに器械的暗記の力のみを調べてゐるのはまだ眞の實力を見る方法ではない。

三　多方面から見た能力　記憶力のみが實力だと思ふのは大なる誤。推理の力、判斷の力、概括抽象の力、想像の力、注意の力などは何れも皆吾人の實力の基をなすものである。吾人が國史を研究するに當つては之等の中の何れの力をも必要とする。推理力の弱い者は原因によつて結果を推測ることは出來ない。判斷力の弱い者はいかなる史實に對しても適當の判斷を下すことが出來ない。概括抽象の力の弱い者は各時代に於ける文化の特色を概括することが出來ない。想像力のない者は現代を離れては更に想像を巡らすの力がない。いかなる直觀物の媒介に依ることもこう〳〵其の時代の狀況を想ひ浮べるすべがない。注意力の弱い者は直觀物を細に觀察することも出來ねば、史實を注意深く學習することも出來ない。して見ると之等の諸能力が充分に發達してゐると否とは直に國史の實力に最も密接な關係を有つてゐると云ふことが分る。從つて國史の眞の實力を調べようとするものは宜しく之等諸方面の能力を調べて見ることが甚だ必要であつて決して記憶力の一に偏すべきものではないのである。

四　國史學習の使命と成績の考査　吾人は終局は國史學習の眞の使命を十分に達成する事を得たか否かを以て國史の成績を考察する資料にする樣に進まなければならぬ。即ち國體の大要を本當に了解してゐるか否か、國民としての情操は眞に陶冶されてゐるかどうか、史的見識は眞に養はれてゐるかを調べて見なければならぬ。之等の使命が若しも充分に達成してゐたら、國史學習の大使命

は大體達成したものゝ認めて共れ相當の成績評を附すべきことが素より當然なことである。

五　國史學習法の體得と其の實力　國史の學習法が其の當を得てゐるか否かは其の兒童の國史の實力の上に頗大な關係がある。であるから吾人は宜しく兒童が眞によく國史の學習法を體得してゐるか否かを考査して見るの必要がある。例へば問題の捉へ方は果して當を得てゐるか解決の順序方法はごうか、多方面からよく觀ての充足した解決法であるか、解決の結果は正しいかごうか、疑問の起し方はごうか、批判の方法及其の結果はごうか、意見はごうか、感想はごうかなどのことを充分に考察して見ることなどが必要である。

六　考査の要領　以上述べ來つた所をまとめて見ると國史の考査法の要領は大體次の樣になる。

1　記憶力だけを考査するのではない。殊に器械的暗記を要求するのは宜しくない

2　正當に理解してゐるか、正當に解釋することが出來るかを見る

3　多方面の能力を見ること

(a)想像　(b)注意　(c)善良な記憶　(d)判斷　(e)推理　(f)概括

4　國史學習の使命に適つてゐるか

(a)國體大要の理解　(b)國民的情操　(c)史眼養成

5　國史學習法を旨く體得してゐるか

(a)問題について　(イ)選び方はよいか　(ロ)問題相互の排列

(b)解決法について　(イ)着眼點　(ロ)解決の順序　(ハ)解決の方法

(c)解決の結果　(イ)正否　(ロ)多方面的充足如何

(d)疑問の起し方如何

(e)批判について　(イ)方法　(ロ)結果

(f)感想について　(イ)つかみ所　(ロ)情操陶冶の程度

6　國史學習帳の利用法を考査して見る

(a)よく工夫考案してあるか
(b)よく整理されてあるか
(c)研究的態度を採つて忠實に學習してゐるか
7　平日に於ける共同學習の態度
(a)發表法はどうか
(b)問題や意見はどうか
(c)眞に元氣よくいき〳〵した學習してゐるか
8　教師から提出する問題は出來るだけ實力を見るに便利な問題を選ぶ
9　なるべく度々考査して見ること
10　方便物、及參考資料の利用法は其の當を得てゐるか

以上の様な諸方面から見るのでなければ、眞に兒童の實力及其の進歩の狀況を知ることは出來ないのである。然るに從來の考査法は動もすれば兒童の器械的暗記力のみを試驗するに過ぎなかつたから、兒童は只試驗前に切迫してから無理な受驗的勉强の弊に流れざるを得なかつた。況して眞の實力なんか中々見られなかつたのである。

第二節　實力を現はす答案(實例)

次に示した答案の實例は予が附屬の小學校を受持つてゐた時、高等一年の兒童に書かしめたものである。問題は「奈良時代の文物に就いて」と云ふのであつたが、其れに對する各兒童の答案の形式は皆異なつてゐた。併し乍ら幸にして何れもよく其れに對する各兒の實力の如何を考察する上に大變便利であつた。

實例其の一(即ち兒童の答案)

歷史　高一　S・T生

奈良時代の文物に就いて

私の調べ方(問題)

1 奈良時代に於ける佛教の發達と同時代に於ける文物との關係如何
2 主にどの天皇の時に盛になつたか
3 文物はどんな物であつたか
4 今はどんなになつてゐるか
5 今の奈良市にどんな影響を與へてゐるか

答

1 奈良時代以前から佛教は次第に盛になりつゝありましたが、聖武天皇や光明皇后の御奬勵のために一層盛になりました。佛教が盛になるにつれて、學問も益々盛になりました。それは坊樣達がお經を研究されたからであります。寺が多く建ちましたから建築・彫刻の術も盛になりました。けさや衣を織つたり、染めたりするために織物・染物の術も進みました。佛像を描いたり作つたりするため繪畫・金屬をいる術も進みました。

2 奈良時代で文物の發達が一番盛であつたのは聖武天皇の御時や其れから後のことゝ思つてゐます。お寺などの多く建つたのは聖武天皇の御時でありますが、こんなにお寺が多く建ちますと建築の術は一層發達しますから天皇がおなくなりになつたからと云つて急に衰へる筈はありません。すべての文物は皆さうであつたことゝ思ひます。

3 奈良時代の文物の中で建築の術はお寺の建築であつたと思ひます。奈良時代の建築物は其の前の時代のよりか念が入つてゐます。柱なども荒けづりではありません。彫刻物も前よりは丸みがついてゐます。繪畫は佛像で見ますと前の時代よりは和らかみがあります。織物・染物なども今までにない發達をして美しいものが出來る樣になりました。和歌の上手な人が澤山出ました。漢文も大變進んで立派な本までも出來ました。

4 聖武天皇時代の寶物は正倉院に澤山ありまして帝室の物になつてゐます。お寺などは今まだ殘つてゐるのがあります。三月堂は此の時代の建て物だと聞きました。博物館に行きますと、此の時代の彫刻や繪畫などが澤山なら

べてあります。

5　奈良市が今日の様に遊覽客が多いのは奈良時代のものが多いから其れを見に來る人が大變多いからです。大佛殿は何べんも燒けましたけれども、大抵奈良時代の建物の其のまゝにのつゝつたものだゝ聞いてゐます。

私の感想

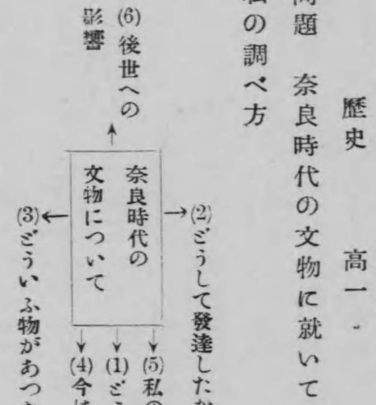
私は奈良時代に於ける人々の苦心して建てた東大寺のこゝを思ひますゝ思はず尊敬の念がわいて來ます。今の世なら汽車もあり電車もありまして大きな家を建てるにしましても、あんまり苦勞しないでも出來上りますが、この時の人人はどれ位くろうしましたものでせうか、あんな大きな佛像を作るにしましても、どうして作ることが出來たのでせう。もしも聖武天皇の樣な立派な天子樣が奈良時代にいらせられなかつたものなら、奈良の町は今どろどうであつたのでせう。奈良の人たちは心から聖武天皇の御恩を感しやしなければなりません。

實例其の二（即ち兒童の答案）

歷史　高一　M・D生

一　問題　奈良時代の文物に就いて

二　私の調べ方



三　私自身のかいしやく

1　どこから傳つて來たか

此の頃我が國は唐ゝの交通が盛でありました。それで此の頃の文物はおもに唐から傳りました。

2　どうして發達したか

唐との交通が盛になると唐から坊さんが渡つて來る。それで佛教が盛になる。聖武天皇も光明皇后も共に佛教を御奬勵になつたから、佛教は益々盛になつた。お寺も澤山たつた。それで建築術も進歩した。東大寺や興福寺なども此の頃に建つた。其の他彫刻も繪畫も織物も進歩したが、皆佛教の爲であつた。此の時既に印刷の術までもあつたと云はれてゐます。だらに經といふお經だと先生から聞きました。河田さんのお宅にも此の時のだらに經があると云ふことを河田さんから聞きました。法隆寺にあるのは見ましたが、河田さんのお宅のも見たいと思ひました。

3　どういふ物があつたか

建築物にはお寺、彫刻繪畫などは佛像、和歌には萬葉集、書籍には古事記、日本書紀などがありました。其の外鏡、樂器なども立派なものが出來ました。

4　今はどこにあるか

此の時代の物で尊い寶物となつてゐるものは正倉院にあるものが一番名高い。博物館に行つた時にも澤山陳列してありました。

5　私の感想

私はこの時代の寶物を見た時に奈良時代に若しも佛教などが盛でなかつたら我が國の美術工藝はとても今日の樣な發達はしなかつたのだらうと思ひますと、私共は此の立派な基を作つて下さつた昔の人に心から感謝しなければならないと思ひます。また東大寺などの大きな建物や大きな佛像などを見るたびに當時の人たちはどれ位苦心したのだらうかと思ひますと、今日の人は弱いことなど云つては居られない筈と思ひます。

6　後世への影響

奈良時代の立派な文物に接する人は誰しも之に感心しないものはありません。感心したら自分にも之に見ならひたいと思ひますから、自然に奮發心を起す樣になります。平安時代はもとより其の後の時代でも、皆多少は

奈良時代の影響を受けてゐるだらうと思つてゐます。

以上二つは共に「奈良時代の文物に就いて」と云ふ予の考査問題に對する兒童の答案の其のまゝである。同時に同じ教室内で同じ問題で課したのに、其の結果は形の上でよほどの相異があり、内容に於ても多少異なつてゐる。殊に感想に於ては全然異なつた書き振りをしてゐるが、併し乍ら奈良時代の進んだ文物に對しては、どちらも相當に感謝の念を有つてゐる。古の人々が之だけのことをなし遂げるまでにはどれ位の苦心慘憺をしたものだらうかと云ふ精神に至つては兩者とも殆ど共通であると思ふ。奈良時代の佛教の發達がどれ位他の文物の發達と密接な關係があるかと云ふことゝ奈良時代の佛教の發達は聖武天皇及光明皇后の御奬勵に依ることが大きいと云ふことも兩者殆ど共通であると思ふ。此の外なほ三四名の者とも比較對照して見たが、何れも其の形式に於ても、また其の内容に於ても多少の差異の存することを認めてゐるが、あまりに煩雜になるから茲には之を省くことにした。

第三節　入學試驗問題改善の急務

「紀元何年はどんなことのあつた年か」「何々のあつた年は紀元何年か」と云ふ樣な問題は云ふまでもなく明かに紀元年數の器械的暗記を强ひる問題である。何となれば兒童に取つては細かな年數までも一々器械的に暗記してゐなければ迚も之等の要求に應ずることは出來ないからである。此の外あまりたいした必要もない樣な地名や人名などを出して可憐な兒童を無理に苛めるのは非教育的と云ふよりは寧ろ殘酷なやり方だと云はざるを得ない。苟も彼等兒童の苦しい境遇を眞に理解し得るだけの餘裕を有つた眞實の教育家であつたら、どうしてこんな無理をするに忍びようか。

問題を作つて出す者の立場から見てはたいした事ではないと思ふかも知れないが、併し乍ら受ける兒童の身になつて考へて見ると中々そんなものではない。

彼等には地理もあれば理科もある。算術もあれば國語もある。從つて歴史專門の教師見た樣にさう國史の研究にのみ沒頭してゐるわけには行かない。そこで毎日學校に居殘つて一生懸命に豫習を受けねばならぬ。而も其の豫習のやり方を見ると、こはいかに口には自學自習と口癖に云つて居り乍ら茲ではまた丸つ切り反對な講演式注入教授を盛にやつてゐて何の怪しむ所もない。かうなつて來ると豫習を受ける彼等兒童は一層迷惑千萬。奔命に疲れ切つてやつと我家の門をくぐる時は早燈が點いてゐると云ふ慘さ。それになほ夜は夜の更くるまで。朝は朝まだきから一日中殆ど休みなしの狀態。ごうかすると日曜日にも休まず冬休み中にもなほ登校しなければならぬ。これが心身共に發達した青年期の者ならばまだしも、僅に尋常五六年位の兒童の身の上であるからなほ更たまつたものではない。

併し乍ら之はつまり小學校の國史教育法其のものにも慥に缺陷があるに相違ない。何となれば不斷からの國史學習法が眞に徹底してゐたら、いよ〳〵こんな場合に際會したからとて、さして心配するの必要はない筈である。それだのに動もすると或一つの新しい主義のために捉はれてしまつて、甚だ不徹底極つた教育法を施してそれで滿足してゐる。即ち名のために捉はれた所謂自學自習の教育法或は自由教育法などが皆それである。かうした無理な缺陷を補つて、更に教育力の充分な徹底を圖るのが予の所謂創作的學習法でなければならぬ。國史の教育が眞によく徹底してゐたら、別にさう苦しんで無理な豫習をするの必要はない筈である。

併し乍ら小學校に於ける國史の教育がいかほど徹底してゐても、中等學校に於ける入學試驗問題が適當でなかつたら小學校に於ける折角の國史教育の効果も亦臺なしにされてしまふ。即ちあまりに細かで而も國史全系の上から達觀してさして必要もない樣な斷片的な問題を課して、受驗者たる彼等兒童を苛めるのが之である。そこで現今及將來に於ける入學試驗の國史科問題は宜しく不斷に於ける國史學習力が眞に徹底してゐるか否かを考査するに適當したものを選ぶ樣

にありたいものゝ思ふ。かうした見地からして吾人は大體次の樣な要求を提出するものである。

1　國史全系から達觀して眞に重要な問題でなければならぬ

2　器械的暗記の要求よりかむしろ兒童の歷史的能力の程度若しくは情操陶冶の如何を考査するに適當した問題

3　一夜造りの速成的豫習の結果で答へられる樣な淺薄な問題即ち山師的投機的にあてる樣な問題でなくて、むしろ小學校に於ける二ヶ年間の國史教育の効果がどれ位徹底してゐるか否かを見るに足る所謂實力考査の問題

4　史實に對して兒童が眞實に理解し或は眞實に感じてゐるかを考査するに足る問題

5　國史の入學試驗を受けるゝ云ふことそれ自身が、一つの立派な國史の教育になる樣になつてゐなければならぬ。換言すれば受驗者たる兒童が國史問題の答案を書く間に自然に今迄まゝまつてゐなかつた思想も立派に整理される樣にあり、或は今まではさまで深く感じてゐなかつた事柄でも、却つて益々其の情操を深める樣な問題でなければならぬ

6　一種の恐怖心に襲はれて、戰々兢々とした心持で不安の裡にやつゝ答へるゝ云ふ樣な問題でなしに、むしろ各兒童の實力相當に且各自相當の自信の念を以つて喜んで答へる樣な問題でなければならぬ

小學校に於ける不斷の國史教育が眞に徹底してゐたら、予が右に述べた樣な要件を備へた國史の問題なら兒童に取つて決して無理な筈はない。若し不幸にして多少の無理があるゝしたら、それは問題其のものゝ無理ではなくて、むしろ小學校に於ける國史教育法の不徹底に歸すべきものだゝ思ふ。要は小學校に於ける國史の教育法を十分に改善して教育力の充分なる徹底を圖るゝ同時に、中等學校に於ける國史科の出題者は予が右に述べた要件の精神の存する所を充分に玩味して直にこれが實現に努める樣に改善しなければならぬ。之が現今最も焦眉の急に切迫した重大問題である。國史の教育者及國史の出題者にして若し不幸にし

て之を斷行することがなかつたら、可憐なる彼等兒童は何時になつても遂に救はれる時機はないのである。こは啻に小學校及中等學校のみの問題ではなくて、實に高等專門の學校に於ける入學試驗に於ても極く大切な問題である。

第四節　國史學習の徹底（附實例）

一　情操陶冶の徹底　國史教育に於て情操陶冶の最も大切な所以は予の既に詳述した所である。然るに世には今猶動もすれば情緒の發動を以て恰も感情教育の能事が畢つたものゝ速斷する者があり、或は又情緒の發動を以て恰も情操其のものゝ樣に思ひ誤つてゐる者がある。元來情緒は吾人々類のみでなく他の動物にも亦見ることを得る本能的感情作用であつて比較的初級の心意作用である。從つていかほど幼少な子供でも、いかに教養のない人でも、又いかなる野蠻未開の民族でも之を具有せない者はない。

併乍ら獨り情操の具有に至つては萬人に均しく之を求めることは出來ない。即ち教養の程度如何によつて其の間に著しい差異のあることを免れない。甚しきに至つては全然之を缺如してゐる者さへもある。何となれば情操は元々感情的要素のみで成立してゐるものではなく、實に明皎々たる理知の照臨によつて茲に初めて陶冶されるものであるからである。而も單に外面的照臨のみで陶冶されるものではなくて、實に感情的要素と叡知的要素とが全く有機的に融合統一して渾一體となつたものこそ眞の情操である。情緒は全く其の儘では盲目的のものであるが情操は決してそんなものではない。情緒は何等の教育を施さないでもひとりでに發育し伸長する性質のものであるが、情操は決してそんなものではない。教育の力を藉りて初めて陶冶されるものである。吾人の情緒の中には或程度までは抑制を必要とするものが少くないが、情操は決してさうではない。教育の力に依つて出來るだけより深く陶冶すべきものである。情緒は外來の刺戟に對して直ちに單獨に發動し得るものであるが、情操は理知的要素と感情的要素

この適當な協調によつて初めて發動するものである。

情緒は他人のなす說話を聽くこゝだけでゝも容易に發動するものであるが、情操の陶冶に至つては中々そんな簡單なこゝだけでは成功し得るものではない。更に進んで自力を以て充分に玩味もして見るし、思考もして見ることに依つて、茲に初めて「いかにも……」と首肯かれる所まで深入りしなければ眞實に陶冶することは云はれないのである。吾人の所謂情操の陶冶はかうした所まで進まなければ、決して徹底したものとは云はれない吾人の指導する所の國史の學習は必ず此の境涯にまで達せしめなければならぬ。之が即ち國史教育の最高最大最終の理想である。而も必ず實現し得る理想である。此の尊い理想を着々と實現してそれによつて確固不拔の大信念を體得せしめねばならぬ。いかなる迫害に遭はうがいかなる誘惑宣傳を以てしようがごんな惡風混濁の中に投ぜられようが之がために毫も恐れたり、動かされすることがなく、全く泰然自若として其の節を死守し、猛然として其の難關を擊破し、奮然として之を根絶せずんば止まないと云ふ大勇猛心を振起せしめなければならぬ。

然るに世には動もすれば一場の講演によつて起る所の喜怒哀樂の情即ち所謂情緒の發動を以て直ちに情操の作用であるかの樣に思ひ誤つてゐる者がある。何と云ふ淺墓なことであらう。こんな淺薄極まる考ではいつになつても、情操陶冶の徹底なんか出來るものではない。併乍ら講演必しも惡いと限つてゐない。否必要な場合にはどし〳〵利用しなければならない。只之を以て唯一の方法と思つて滿足してゐたのは最大なる誤であつた。吾人が情操の陶冶を圖らうとするに當つては情操の陶冶の最適當した樣に著はされた國史の教科書や參考書などを充分に深く味はしめて見ることも必要であるし、又本當に兒童の眞心の奥底から抑へようとしても迚も抑へ切れない樣に自然に勢よく迸つて出る所の眞實の感想をお互に發表せしめて教室内の全體の氣分を淨化することも必要であるし、又兒童相互間に行はれてゐる感想の發表交換の上に更に教師の最洗錬せられた美しく、且燃ゆるが樣に强い信念を以て教師自身の僞らない所の眞實の感想を

述べて不知不識の間に全體の兒童を引きつけ以て殘らずの兒童をして本當に心から感動せしめることも必要である。

要する所はつまり兒童の眞の情操が本當に陶冶される所まで充分に徹底せしめなければ止まないと云ふ樣でなければならぬ。たつた一つの方法で以て直に滿足すべきものではない。吾人が最高最大の理想を實現するに當つては宜しく最善の努力を盡さなければならぬ。

二　史的能力陶冶の徹底　吾人は兒童の史的見識を充分に正確に涵養しなければ決して止まないと云ふ大覺悟を有つてゐなければならない。同時に苟も兒童が史的物件に遭遇した場合には其のいかなる種類のものたるを問はず、必ず之を歷史的立場から正當に解釋して見なければ止まないとの强い研究心を有たしめる樣に充分に徹底的に指導することを必要とする。否むしろ兒童が學校を卒へた後までもかうした美しい强い研究心を失ふことがなく、何等かの機會の至る度毎に必ず之を實現して見たいとの燃ゆるが樣に勢の强い學習態度を充分に體得せしめる所まで徹底せしめなければならぬ。

若し幸ひにして之が充分確實に徹底してゐたら、もう占めたものである。彼等兒童は何等の指揮命令も待たず、何等の暗示をも與へられないでも、自ら進んで機會を作り、問題を搜し求めて自ら之が解決を試みて見る。かうして自ら得た解決の結果は大抵は喜んで學校に持つて來て、教師の意見を聞いて見る。夏休み中や冬夏休み中にかう云ふ學習をして見る者もあれば、卒業して後家庭の人となつてからまでも猶盛に之を行つてゐる者さへもある。其の學習對象物となるものは或は鄕土史に關するものがあり、或は新聞や雜誌類にあるものゝ中から選ぶものがあり、或は時事問題を中心とすることもある。試みに予の手許によこした卒業生の分を分類して見るに、

1　鄕土の史料を中心とするもの
2　新聞や雜誌にある史的材料を中心とするもの
3　時事問題を史的見地から研究したもの

4　在學中學校で習つた教科書を中心としたもの。

5　兒童自身には全然習つたことはないが、己の同窓生が上級の學校に入學したがために自身には家庭の人であり乍ら、上級學校用の教科書を購入して自力で學習したもの。

6　自分の家の歴史を中心としたもの。

7　在學中に用ひた國史の學習帖を中心としたもの。

まづ大體以上の通りになるが、併乍ら之以外にも種々雜多なものがある。次に示す實例は右の中の第一類に屬するものである。

實例

三位中將平重衡卿の最後

S生

木津名勝の一に哀堂（アハレダウ）、平重衡塔、頸洗池、不成柿（トラズガキ）がある。之等には平重衡にからまる悲しい傳說がある。

一　哀堂　本尊阿彌陀佛は重衡の引導佛で土地の人が重衡の最後を哀んで此の堂を建てたのである。

二　平重衡塔　十三重の石浮圖で高さ凡そ二間、兆域凡そ二坪許り。

以上二つは木津町安福寺の境內にある。

三　頸洗池　今は僅かに廣さ一坪許りの小池となつてゐる。あたりは雜草がぼう〳〵と生ひ茂つて地面は濕氣を帶びてヂメ〳〵してゐる。こんな貧弱な小池の水で三位中將ともあつたお方の御頸を洗つたらうなどは誰にも思はれさうにない。

傍にはこんな立札があつて、六つかしい文字を書き連ねて其の由來を細々と記してある。

四　不成柿　頸洗池の側にあつて、今は一坪ばかりの家となつてゐる。家の上には一本の古い柿樹がある。土地に濕氣が多過ぎるためか、ろくに實を結ばない。重衡が最後のまぎはに臨んで、ふだんからたしなんでゐた柿を一個食べた。土民は之をいたく憐れに思つて柿を植えて家標にしたことのこ

と。

此の柿樹が實を結ばないのに一つの面白い傳說がある。それは重衡が今はの際に臨んで柿を食べて

『此の種子を蒔き、芽が出て樹になり、いよ〳〵果實を結んだ時には、我が成佛した證據であり、若しも果實を結ばない時には重衡は畜生道を迷つてゐる證據である』

と云つてとう〳〵なくなつたとのことである。（先生之は傳說でありまして事實ではございません）

三と四とは共に安福寺の西北方、小學宮の裏、鐵道と郡道との交叉點の西南側にある。

平重衡家在二千童子村一家上有二柿樹一不レ結レ實故俗呼二不レ成柿一傍有レ寺號二安福寺一憐堂傳云斬二重衡於此一（山城志）

重衡の死

三位中將平重衡卿が木津に着き給へば、土肥次郎と云へる時の役人が使者を南都を立てた。

次郎『三位の中將をば土肥次郎預り具して此迄まかり來たる也』と告ぐ。

南都役人『般若寺の南へば不レ入して可レ被二相計一愚考般若野は山城大和の堺二十町南般若寺西北の野也。

首をば衆徒の中に賜へ。可レ加二一見一と云々。

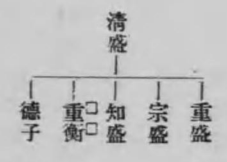
かうして其の日も暮れたから、木津川より南の在家の中に、大道より（中略）折りしも時鳥の鳴いて西の方へと指して行くを聞き給ひて、

『思ふこと語り合はせん時鳥喜ばしくも西へ行くかな』

と口ずさみ給ふ。（中略）

重衡の最後についての私の感想

私は重衡が平氏繁榮の時分にどんな事業をなした人であるかは知りません。けれども重衡は從一位太政大臣清盛を父に持つた人であります。これほどに



尊い身分の人が前に述べた樣なはかない最後を遂げたのかと思ひますと勿體ないやらお氣の毒やらでたりません。此の重衡を惜しむと同時に、此の優にやさしい名中將を無殘にも殺してしまつた無情な將軍のやりかたを憎まざるを得ません。

此の無情な將軍が即ち源頼朝であります。元々頼朝の生命を救つてくれましたのは誰のお蔭でありませう平治の亂の結果當然殺されなければならなかつたのを可哀想に思つて心から命乞ひしてくれたのは誰のお蔭でありませう。其の時に命を助けられたばかりで今は征夷大將軍にもなつてゐるのではありますまいか。頼朝の命を助けて征夷大將軍としての今日あらしめたのは、ひとへに重衡の義祖母池尼の助言ではありますまいか。云はゞ池尼は自分の命に代る大恩人ではありますまいか、かうした大恩人池尼の義孫が即ち重衡であると思つたら、どうしてこんな無殘な最後を遂げさせるに忍びませう。

頼朝は恩義も何も知らない人である恩義を重んずるのが本當の武士の面目ではありますまいか。恩義を忘れ、情の心はなく、無殘極まる最後を遂げさせて、それで何とも思はない樣な武士でどうしませう。人間としてはとてもなすに忍びないことを平氣でしてゐると云ふのはよつほどな罪惡である。こんな恩義知らずの人を頭に頂いた源氏の幕府がどうしてそんなに永く續くはづがありませうか。果して僅かに三代にして滅んでしまひました。

以上は實にS生が「三位中將平重衡卿の最後」と云ふ問題を中心として自ら調べて來たものゝ一部分を拔萃したものである。實地の踏査もするし、傳說をも調べるし、文書類をも繹ねるし、其れ等を打つて一丸として、眞に我が物となし、それに更に自己の眞心から出た感想をも書き添へて予に提出したものである。S生は更に之に添へるに詳細な自己の想像畫を以てした。なほ委しいものになると十ページも二十頁も書いて態々郵送して來る者までもある。國史學習も茲まで徹底すると實に愉快でたまらない。自ら寢食を忘れて國史教育のために献身的に

努力しないではゐられなくなつて來る。情操の陶冶も史的能力の陶冶も茲まで徹底すると、無我の境に入つたが樣な氣がする。併乍らまだ〳〵之で滿足してはならない。もつと〳〵開拓すべき餘地が吾人の前に横はつてゐると思ふ。

要するに情操陶冶の徹底は史的能力の徹底と共に相協同して以て其の完成を期すべきものであつて、最高の終局は遂に一如不離の渾一體に歸結するものである。吾人は常に絶えず此の大理想に向つて堅實に進んで行かなければならない。

第十一章　眞の自由と國史學習との關係

第一節　情操の陶冶と個人の自由との關係

一　國民的情操の陶冶は個人の自由と衝突するものでない

よく方方で「國民的情操の陶冶は個人の自由を束縛するものではありませんか」との質問を受ける。併し乍ら國民的情操の陶冶は決して個人の眞の自由を衝突すべき性質の物ではない。何となれば吾人々類は生れ乍らにして生活本能が備はつてゐる。從つて各個人が何れも皆出來るだけ完全に生活したいと希望するのは之は素より自然の情である。然るに其の生活を少しなりとも完全にしようとならば、宜しくまづ其の環境に順應しなければならぬ。若し其の環境に順應する事をしなかつたら結局死滅するより外はないのである。

それであるから、自ら強く且つ出來るだけ完全に自己を生かさうとするには勢ひ自己の眞の自由意志を以て自己の環境に順應する樣に適當に自己を處理して行かざるを得ない。然るに各個人の環境は云ふ迄もなく其の個人が接近する所の自然及社會は素よりのこと、國家も亦た一つの最も偉大なる環境でなければならぬ　而も國家は各個人の生活を最も完全に保障しようとする最も偉大な環境である。從て各個人が最強く且つ出來限り完全に生きようとするには、云ふ迄もなく其の最も偉大な環境をなす所の國家に最よく順應する樣に各々の自己を處理せざるを得ない。何となれば國家の事情に最よく順應する者でなければ自己の生活を最強く且完全に保つことを得ないからである。

二　最堅牢に築き上げた國體國情

各個人が自己の生活を最完全に保つためには其の屬する所の國家の事情に最よく順應しなければならない理由は今述べた通りであるが、然るに國に依つて各其の事情を異にしてゐる。だから歐米の國々に各其の特有の事情が存在してゐるが樣に、我が國にも亦た我が國特有の事情が存在してゐなければならない。之が即ち我が國獨特の國體であり國情である。此の國體國情と云ふものは決して一朝一夕の間に出來上つたものではなく、建國以來今日に至るまで約三千年の永い間我等の祖先が心を合はせ、力を協せて、最堅牢に築き上げて來たものである。君民一體擧國一致苦心經營の結晶である。

此の由つて來た所の深い事情を後繼者たる彼等兒童に充分に理解せしめ、且つ感動せしめなければならぬ。かうした充分な理解と深い感動とに依つて、彼等は現在及將來に於て益々立派な國民的生活を完うしようとの甚強い信念を有つ樣にならなければならぬ。國民的情操はかうして初めて陶冶されて行くのであるかうして國民的情操が、いよ〳〵深刻に陶冶されて來ると、たとひ外部からの强制はなくても全く自己の自由意志を以て、出來るだけ完全に國民的生活を遂げたいと希望せざるを得ないのである。勿論各人の自由意志に出てゐるのであるから

之が即ち各個人の眞實の自由である。だから、本來の性質上、國民的情操の陶冶は決して各個人の眞の自由と衝突すべきものではない。

第二節　講演式教授と眞の自由との關係

一　說話を聞きたがる兒童の心　兒童は元々好奇心に燃えてゐる者である。隨て珍しいお話なら何でも聞きたがる。之を稱して好奇本能と云ふ。之は云ふまでもなく兒童自然の要求であるから、說話を聞きたいと熱望して止まない場合には、勿論之が要求を適當に滿たしてやるべきことは勿論のことである。

二　知つてゐることは話したがる兒童の心　併し乍ら彼等兒童はそんなに何時までも他人のなすお話のみを聞いてそれで滿足してゐられるものではない。丁度兒童の發達程度に適當した材料さへ充分滿足に與へたら、彼等は自らの力を以て自由に之を調べて見たくなつて來る。之も亦た兒童の自然の要求である。之も亦た前と同じく初めは好奇本能から發したものである。かうなると前の時よりは兒童は既に一段の進歩をなしてゐるのである。即ち兒童が他人のお話を聞きたがる間は、彼等がまだ十分に其のお話の內容を知悉してゐない間だけのことである。

兒童が既に其のお話の內容を十分に知悉してしまつた曉には、兒童はもはや前の樣な非常な趣味を以て熱心に聽かうとするものではない。其の代り之にかはる他の者が盛に發動する樣になつて來る。發表本能が即ち之である。此の發表本能が甚だ優勢であるが爲に自己の知つてゐる所を自由に發表して見たくなるのである。無論從來の樣に無味乾燥な教科書であつたら、兒童自らが進んで之を研究し、發表しようとの希望も餘計には起らないが、併乍ら今度新定になつた教科書の形式及其の內容はよつぽどよく改善されてあるから指導法さへ其の當を得てゐたら兒童はたとひ教師から命ぜられなくとも、大抵は豫習して見たくなつて來る。まして自學自由の良習慣の出來てゐる學校の兒童は猶更のことである。

然るに教師がいつまでも此の自然的な當然の要求を抑へつけてしまつて、最初から最終まで滔々と饒舌り續ける樣では、折角發表したいと希望してゐた所の兒童に取つては實に迷惑千萬なことである。

三　未賴もしい發表本能の抑制　此の迷惑をも顧みず、此の自然の美しい要求を片つ端からはねつけてしまつて、平然として教師からのみ饒舌り續けて行くと、未賴もしい發表本能に燃え立つ樣ないき〳〵とした兒童は默つてはゐられなくなる。そこで思はずお話の先きの方をひよつと口走つてしまふ事がある。そこで無情至極な教師は忽ち赫然とおこり立つて大喝一聲の下に之を抑へつける。あはれ可憐な彼の兒童は此の意外な大喝のために全く縮み上つてしまふ。無論他の兒童までも一時にふるえ上つてしまふ。何と云ふ殘酷なやり方であらう。

四　あたら天禀の美質　かうしたことが度重なるに隨つて彼等兒童は益々いくぢなしになつてしまふ。怒鳴られることの怖さに趣味のないお話でも一時間中じつとして聽いてゐなければならないし、折角云つて見たいと思つてゐることでも一時間中何とも云はずに過さねばならない。こんな調子でごうして眞にいき〳〵した好學心が養はれようか。彼等兒童は只教師から命ぜられた狹い範圍内に於てのみ唯唯諾諾として之に盲從するのみである。從つて多くの兒童は各其の有する天禀の美しい素質を思ふ存分に自由に伸長せしめ得るの機會はとう〳〵なくなつてしまふのである。同時に眞に子供らしい天眞爛熳さは漸次失はれてしまふのである。無論同一の型に無理にはめこまれてあるから、そが一齊に行動する時には外見上いかにも美しく見えることもある。併し乍ら之は單に外見上の形式美であつて、眞の自由の伴ふ本然の美ではない。眞に子供らしい所の天眞美ではないのである。恰も彼のエジプト藝術に見える樣な一齊美に過ぎないので、希臘藝術に現はれてゐる樣な活氣横溢した眞の自由美ではないのと同じ樣なことである。

五　眞の自由と捉はれない教育法

必要に迫られた講演は必ず行はねば

ならないが、併し乍ら之を唯一の主義として一方に偏するの弊は即ち今述べた通りである。此の大缺陷を補ひもし、更に之に加ふに兒童の自然の要求に伴ふ所の眞の自由を容れてもやり、之に依つて彼等兒童が將來大に伸びようとする天禀の素質を思ふ存分に伸ばす樣に絶好の機會と餘裕とを與へてやるのが、予の所謂創作的學習法である。國史教育の徹底を圖り、以て國史教育の眞の目的を立派に達成しようとするには必ず此の方法を選ばざるを得ないのである。

第十二章　改善された高等小學國史下卷

一　趣味に富んだ材料　從來の教科書はあまりに抽象的で、骨拔きで、無趣味で、砂を嚙むが樣であつたが、今度の新制の方は此の點に於ては慥に一新されてゐる。即ち高等科の一二年生位の兒童に最も適當した趣味に富んだ材料をうんと取入れてある。例へて云ふと從來の教科書では「第八豐臣秀吉の海內平定」第三節に於て「此の時秀吉は供御の料を增し奉り、云々」とあるを改めて、新教科書では「和歌の會舞樂の天覽など、連日の御もてなしに大御心をなぐさめたてまつれり。此の時諸大名を會して皇室を尊ぶべきことを誓はしめ、云々」

とあるから、第百一代後花園天皇が四代將軍義教の永享九年に室町邸に行幸遊ばしてから、百六十二年目の四月十四日後陽成天皇が結構壯麗な聚樂第に御臨幸に

なり、關白職たる秀吉が文武百官を率ゐて之に供奉し、舞樂を催し、和歌の會を開いて御興を添へ奉り、山海の珍味を奉つて御歡待申上げた様がいかにもあり〳〵と覩はれる様に出來てゐる。「聚樂第行幸記」に

「かねては三日の行幸と定められしかども、餘りに御殘り多し。せめて五日とゞめ奉るべし。然ればかかるめでたき御代にあひ奉ることゝ、天の許せる道にや、此のたびの行幸、後のためしにもと思召し、朝廷いよ〳〵榮え行くべき御願ひなり云々」とあるのと對照して見てもいかにも思ひ切つた改善であると思ふ。

あけて四月の十五日、右近衛權少將豐臣利家（即前田利家）參議左近衛中將豐臣秀家（即浮田秀家）權中納言豐臣秀次、權大納言豐臣秀長、大納言源家康（即德川家康）內大臣平信雄（即織田信雄）六名の連署を以て皇室を尊ぶべきことの誓書を出さしめた點なども大抵想像される様に出來てゐる。殊に九頁の所にある

「秀吉は士民を愛撫し、あるひは巨額の金銀を聚樂第の門前に積みならべて、諸將に分ち與へ、あるひは北野の大松原に八百餘の茶席を設け、風流に志ある人々をひろく海內につのりて大茶の湯を催し、士民と樂を共にしたりき」

の如きは、從來の教科書中には絕えてなかつた所である。即ち長束正家の様な立派な計數の士を擢んでゝ之をして會計のことを掌らしめ、それに依つて府庫の充實を來たし秀吉が、無暗に之を咎む所なく喜んで諸將に分ち與へた點や、天正十三年十月朔日北野松原に方一里に亘る大茶の湯を催し、洛の上下、奈良堺のあたりに至るまで高札を立てて、數寄の者を集め、士民と樂を共にした事實が、兒童の眼前に手に取る様に寫されて、自然に感興が湧く様になつてゐる。

其の他十七頁にある狩野永德の幼時、四十二頁にある中江藤樹、四十七頁にある元祿風、六十頁の天保の改革、七十二頁の英艦暴行事件の如き皆趣味に富んだ書き振りで、兒童の學習心を充分にそゝるに足る。

二　文化史的の材料豐富　從來の教科書では縱ひ文化史的材料があつても其の內容が極めて貧弱で、抽象的で、少しも兒童の趣味をひくには足りなかつた。

然るに新教科書では

第三十四　邦人の海外發展と當時の文化（宗教・學藝・交通・藝術）
第三十六　外國との交通（交通貿易宗教）
第三十七　島原の亂と鎖國（交通・宗教・學藝）
第三十八　產業學問の發達・元祿時代の文藝（交通・產業・文教・漢學・通俗文學・藝術）
第四十九　文化の發達（經濟・宗教・文學・藝術・風俗）
第五十五　國運の進步（經濟・交通・通信・學藝・美術・工藝・社會事業の發達）

の六課が全然文化史を以て終始してゐるのは素よりのこと、其の他の課の中にも文化史的材料は豐富に存してゐる。即ち

第三十三　國內の統一（九頁・十頁、茶の湯及經濟の發達）
第三十五　江戶幕府の創立（二十五・二十六頁、貨幣、藝術）
第三十九　江戶幕府の中興（市區改正・經濟・洋學・產業）
第四十　江戶幕府の衰運（學術・文學・藝術・風俗）
第四十一　尊王論と國學の勃興（國典の研究）
第四十三　洋學の發達と開港の始末（洋學・交通・貿易）
第四十七　外交の進步と社會の變遷（泰西文化の輸入・風俗の一新・思想の變遷）

などが其の主なるものである。而も其の書き振りが何れも極めて通俗的になつてゐるから、從來の教科書に比して實に格段の差があると云はなければならない。

三　趣味に富んだ挿繪　從來の教科書には挿繪が二十三枚ほど入れてあつたが、併し乍ら一向まだ兒童の眞の趣味をひき起すには足りなかつた。然るに新教科書では數に於ても既に其の三倍に達し、且所々に適當な地圖をも加へてあるから、兒童が自學するには極めて便利に出來てゐる。即ち八頁に出てゐる大茶の湯の繪の如き、或は三十八頁に出てゐる挿繪の如き何れも兒童をして、自然に之に親ましめざるを得ない樣に出來てゐる。

四　名畫を挿繪として取入れてある　從來の教科書には名畫の挿入がたつた一つもはいつてゐなかつた。只繪畫の名人に誰がゐたと云ふことのみ書いてあつては、一體どんな繪を描いたのか、兒童には少しも分る筈がない。土佐派と

か狩野派とか浮世繪とか云ふ言葉が出てゐても、實物の寫が出てゐない以上は想像することが出來ない。それでは藝術史としては何等の意味をもなさない。單に理屈のみが分るに過ぎない。然るに藝術の藝術たる所以は其の理屈の方面よりも、むしろ其の巧妙な藝術其の物に存してゐる。千百の理屈を並べるよりか、實物を一瞥せしめた方がいくら効果が大きいか分らない。然るに今度の新教科書では之が思ひ切つて採り入れてある。即ち

十七頁狩野山樂の畫(山樂名は光頼・永德の養子で豐臣氏に仕へ、大阪城陷つて後山城男山に隱棲す。筆法極めて嚴正・京狩野なる一派の魁)

四十五頁尾形光琳の畫(光琳名は方祝・また道崇通稱を雁金屋藤三郎といひ、光琳渊聲・伊亮・寂明・青々堂・長江軒等の號がある。元祿寶永の頃畫事を以て法橋となる。はじめ畫を狩野安信に學んだが之に甘んぜずして古土佐の風を喜び遂に一家の格をなす。其描く所濃彩華麗の中に粗放の所があつて勢紙外に溢る)

五十八頁圓山應擧の畫(丹波國桑田郡穴太村の人、享保十八年に生る。初めは狩野派なる石田幽汀の門に學んだが、後支那の元・明の畫風を學び最も寫生に長ず)

百二十一頁狩野芳厓の畫(芳厓は長州豐浦の藩士・江戸に至つて勝川雅信に學び勝海雅道と稱し、橋本雅邦と共に木挽町伊川門生中の獅子王と呼ばる。中にも芳厓俊邁の器があつて天成の才を揮ふ。此の圖の如き東京美術學校所藏の悲母觀音の圖で渠が畢世の大作、其の永眠前五日に完成したものである)

百二十二頁橋本雅邦の畫(武藏國川越藩の繪師橋本養邦の子、江戸の生れ、狩野勝川の高弟で其の塾頭となる。美術學校が開設せられるに及んで其の主席教授となり、後日本美術院長となる。其の描く所山水に特に妙にして人物畫は其の長所でない)

の五幅を挿入してあるから、藝術史殊に繪畫史を學習せしめるにあたつては、極め

て便利である。

附錄　現代畫家の流派

なほ繪畫史を學習せしめるにあたつて、其の參考資料として左に現代に於ける名畫家の流派を示すことにした。

一　倭繪の系統に屬するもの

- 土佐光文
  - 川邊御循
    - 村田丹陵
      - 伊藤紅雲
  - 川崎千虎
    - 小堀鞆音
      - 磯田長秋
      - 安田靭彥
      - 尾竹竹坡
      - 尾竹國觀
      - 川崎小虎
- 住吉弘貫
  - 守住貫魚
    - 津端道彥
  - 山名貫義
    - 高取雅成
    - 松岡映丘
  - 前田貫業
    - 吉川靈華

二　狩野派の系統に屬するもの

- 狩野雅信
  - 狩野芳崖
    - 本多天城
    - 岡倉秋水
  - 橋本雅邦
    - 橋本秀邦
    - 橋本永邦
    - 橋本靜水
    - 下村觀山
    - 西郷孤月
    - 菱田春草
    - 川合玉堂
    - 寺崎廣業
    - 横山大觀
    - 本村武山

三　浮世繪の系統に屬するもの

歌川豐國―歌川國芳―月岡芳年―稻野年恒―北野恒富
　　―落合芳幾―水野年方―鏑木清方
　　　　　　　　　　　　　―池田輝方
　　　　　　　　　　　　　―池田蕉園
　　　　　　　　　　　　　―荒井寛方
　　　　　　　　　　　　　―右田年英―河合英忠
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―鯖崎英明
　　　　　　　　　　　　　―武内桂舟

四　圓山派に屬するもの

中島來章―川端玉章―川端五雪
　　　　　　　　　―川端茂章
　　　　　　　　　―福井江亭
　　　　　　　　　―結城素明
　　　　　　　　　―平福百穗

五　四條派に屬するもの

塩川文麟―幸野楳嶺―芳池芳文―菊池契月
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―田中賴穗
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―山田敬中
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―島崎柳鳴
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―杉浦非水
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―竹内栖鳳
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―都路華香
　　　　　　　　　　　　　　　　　　―川北霞峯

なほ右の外圓山派に今尾景年、久保田米僊、四條派に西山翠嶺、橋本關雪、土田麥僊、榊原紫峰、村上華岳、小野竹橋、川村曼舟、荒木十畝等の俊才がある。

五　內容の豐富　從來の教科書では豐臣秀吉の海內平定から現代に至るまでの史實を僅に八十五頁の間に收めてあつたが、今度の新教科書では同じく國內の

統一以來現代までを百八十一頁、即ち舊教科書の二倍にあたる紙數に收めてある。從つて其の書き振りが何れも抽象的でない。啻に文化史的の材料のみではなくて、いかなる種類の材料でも皆內容が充實してゐる。それであるから兒童が自學する上から見ての便利さは迚も從來の教科書の遠く及ぶ所でない。例へて云ふこと舊教科書百四頁にある

「翌年十一月憲法の規程に從ひ、第一回帝國議會を東京に召集し給ひ、天皇親臨して開院の式を擧げ給へり」と、新教科書百十六頁にある

「翌二十三年十一月第一回の帝國議會は東京に召集せられ、伊藤博文は貴族院議長に中島信行（なかじまのぶゆき）は衆議院議長に任ぜらる。天皇親臨（しんりん）して開院の式を擧げ給ひ、立憲の政體こゝに備れり」

とあるのを前後對照して見ると、後者の方がこれ位內容が充實してゐて、兒童をひき付けるに便であるかは論を俟たない所である。

六　形式的方面の平易

從來の教科書は文字、文章がむつかしく、且內容が無趣味であつたから、中々兒童が自ら進んでこれを讀んで見たいと云ふ强い希望は出なかつたのであるが、今度の新教科書は文字も文章も共に平易になつた。殊にちよつとまごつく樣な文字語句には悉く振假名を附してあるから、決して高等科の兒童にむつかしいとは云はれない。無論予の理想とする所とはまだよほど距離があるのであるが、兎に角從來のに比べては大なる進歩である。

從來の教科書では內容ごころか、初めはまづ文字、文章の學習と云ふ方面に少なからぬ力を盡さざるを得なかつたから、內容を攝むまでには、兒童は大分苦勞を嘗めたものである。之が即ち從來の國史教科書取扱上の最大難關であつた。然るに今度の新教科書では此の點に於て比較的大なる改善を加へてあるから、今後の國史學習者は勿論、指導の任にあたる者も一時に重荷を下した樣な觀がある。國史教育の任にある者は宜しく之を機として充分に內容方面の徹底を圖らねばならない。

七　文學的材料の利用

從來の教科書には只の一も文學的材料の取入れが

なかつたから、一層無味乾燥に堪へなかつたが、今度の新教科書にはよほど注意して取入れてある。即ち

十五頁「露とおち露と消えぬるわが身かな
　なにはの事は夢のまた夢」（秀吉の辭世）

四十四頁「古池や蛙飛びこむ水の音」（芭蕉の俳句）

六十六頁「人はよしからにつくとも我が杖は
　やまと島根にたてんとぞ思ふ」

八十五頁「妻は病狀に臥し兒は飢に叫く、挺身直ちに戎夷に當らんと欲す
　今朝死別と生別と唯皇天后土の知るあり」（雲濱の詩）

同　頁「親思ふ心にまさる親心
　けふのおとづれ何ときくらん」（松陰の和歌）

百五十五頁「ことしへに民やすかれと祈るなる
　我が世を守れ伊勢の大神」（御製）

百五十六頁「花になれみをもむすべといつくしみ
　おほしたつらんやまとなでしこ」

と云ふ七首の好資料を收めてある。而も此の七首の資料は何れも揃ひも揃つて其の作者の思想感情抱負を其のまゝに表現されてあるから、之を再三再四玩味して見ると云ふことは、作者の態度を明かにして、以て史實の理解なり、趣味なりを助ける力が隨分大である。

八　特に現代史を重んず　高等科の國史にあつては、特に現代の文化を充分に理解せしめると云ふ事が甚だ必要である。然るに從來の教科書では現代史を僅に二十五頁の間に收めてあつから、これを充分に理解せしめるには餘程な困難を感じてゐたが、今度の新教科書では實に八十八頁、即ち殆ど從來の教科書の四倍に近い紙數を費してあるから兒童は、自らの力を以て之を讀んで見る間に、自然に現代の文化の次第が分明する樣に便利に出來てゐる。國史教育の任にあたる者は宜しく充分に兒童をしてこれを味はしめるやうに適當の機會と餘裕とを與へ

ねばならぬ。

附錄　高等小學國史下卷取扱上の注意

今次に讀者諸賢の御參考のために同書取扱上の注意要件を提供して見よう。勿論各課に亘つて詳細に述べるの餘裕が今はないから、假りに一般に亘つての要領のみをかい摘んで置くに過ぎない。

1　文字文章が比較的平易であり內容が豐富で趣味に富んでゐるから出來るだけは兒童自身が自ら進んで自學する樣に導かねばならない。即ち自ら讀んで自ら味はつて見る樣でなければならない。もう尋常科の樣ではないのでぢきに小學校の最高學年を卒業すべき時になつてゐるのであるから之位の程度のものは自由に讀んで自由に內容を採ることが出來る樣に導かねばならぬ。

2　文化史を取扱ふにあたつては、宜しく其の前後の時代と比較對照せしめ、連絡を採らしめつゝ學習せしむべきことは云ふまでもないが、此の學年に於ては特に文化の各要素即ち宗教とか、學藝とか、文學藝術、交通、風俗などが各どんな徑路を經つてどんな方向にどう發達したかと云ふことを充分に味はしめなければならない。即ち各々文化要素の縱の連絡を常に保つ樣にすること。

3　各々の挿繪が一體當時のどんな所を表現してゐるかを充分に考へしめ味はしめなければならぬ。挿繪を中心として簡單な問題を作らしめるなども宜しい。

4　繪畫彫刻等の挿繪は何れも皆其の妙技の特色を見るに足る所の實物に等しいのであるから、作家の小傳及苦心と對照しつゝ充分に味はしめねばならぬ

5　進步した現代の文化を生むまでの間に先人がいかほどの苦心をしたものであるかを知らしめ以て根源のない文化はないと云ふことゝいかなる國の文化も決して一朝一夕に出來得るものでないと云ふことを知らしめる。

6　常に尋常小學國史下卷との間に直接の連絡を保ち、兩者相俟つて近世以降の國史が充分に闡明せられる樣にありたい。殊に兒童が豫習するに當つて常

に彼是對照しつゝ學習することは一層望ましい所である。

7 指導者は出來るだけ教科書の本文を中心として教材を精究し以て近世以降に於ける文化史を具體的に表明する樣に準備してゐなければならぬ。是がための參考書として推奬したいものは

日本文化史　安土桃山時代篇　江戸時代前期篇
明治時代篇何れも大鐙閣藏版發行）

江戸時代論（日本歷史地理學會編纂發行）

開國五十年史上下（大隈重信著）

8 第四十五明治維新以降のわが國の歷史は凡ての點に亘つて常に外國との關係の存してゐないものはないから、常に世界に於ける我が日本として取扱ふことが大變必要である。無論之は第五十七第五十八に於て我が帝國の地位及國民の覺悟として出てはゐるけれども、なほ其の上に每課に於て指導者が此の心持でゐることは云ふことは極めて大切なことである。

9 明治維新以來廣く知識を世界に求めることは云ふことと、舊來の陋習を破ることは云ふことのために、多少新舊思想の衝突を來したことはあるが、併乍ら兩者とも結局國家の將來を憂慮するの餘りに出たことであつたこと並に明治の開國以來我が對外政策に於ては大體に於て其の措置を誤らなかつたことは實に明治元勳の功績に歸すべきものであることは云ふことを悟らしめねばならぬ。

10 明治の憲政發達の歷史を學習せしめることに依つて、立憲治下の國民として相當の修養の必要なことを知らしめる。

11 尋常科の樣にはないから、兒童を適當に導いて此の課は一體前の第何課と直接の連絡があるだらうか、尋常小學國史のどこと連絡を採るべきかを自ら考へ自らの力を以て出來るだけ適當の連絡を取つて豫習する樣に適切な指導をしなければならぬ。

12 時事問題と最近い關係のある時代の國史であるから、充分に之を利用することを忘れてはならない。例へて云へば目下の帝國議會の概況と國史にある

所との間に具體的の連絡を取つて充分に理解せしめるが如き其の一例である。

國史學習上の諸問題と其の解答　終

國史學習上の諸問題
附奥　其の解答

著作者　悔井弘
著作權所有

大正十五年五月二十日印刷
大正十五年五月三十日發行

【定價金貳圓八拾錢】

著作者　悔井弘
發行者　永田與三郎　大阪市東區上本町一丁目十三番地
印刷者　八橋久　大阪市南區西櫻町一番地

印刷所・頒運印刷株式會社

製本部・日本印刷製本株式會社

發行所　東京市麻布區霞町二番地　大阪市東區上本町一丁目十三番地　奈良市南半田町十三番地　東洋圖書株式合資會社
（直接註文一手取扱）大阪市東區上本町一丁目・振替大阪三九五五六番

大賣捌所
（東京）南海書院・東京堂
（大阪）寶文館・盛文館
（名古屋）川瀨・星野
（京都）書籍
（東枝・博省堂
（佐賀）大坪
（熊本）長崎
（久留米）菊竹

東洋圖書の教育書

七版

學習心理と學習樣式

九大文科教授 松濤泰巖先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

□學習主義の根柢をなす學習心理を詳說し、教師中心より兒童中心への新黑潮の基調を闡明された邦文唯一の書物である。

□兒童心理上より學習樣式を分說し、學習の新指導法をも示されてゐる。

八版

自發教育案と其の實現

福井縣三國小學校長 三好得惠先生著 定價三・五〇 送料〇・一六

□學習法を地方の一學校へ理想的に實施した我國未聞の好成績を收めた實際實績である

□現制度の下に實施し得る隱健着實な新教育法である

□**畏くも摂政宮殿下の御臨覽を賜ふ**

五版

新學校の實際と其の根據

東京兒童の村小學校 志垣寛先生著 定價二・八〇 送料〇・一八

□新學校の行はれる新しき學校とは何か。其の意義、組織、校舍、教師、兒童、學級、材料、方法等を明かにし、實に歐米に於ける新學校並我國に於ける新學校の實際と其の根據をなす教育的哲學的見地とを詳論されてゐる

廿八版

學習法と實施 各學年の學級經營

奈良女高師 清水甚吾先生著 定價二・八〇 送料〇・一八

□二十年の訓導生活中學級王國の建設を以て其の信條とされた著者が、更に最近學級經營の創試者としての體驗に基き最新の學級經營の理論及び實際を詳述された一大力作で一年たらずに廿三版を重ねた大好評の名著

四版

合科學習の實施と其の一般化の研究

奈良女高師 鶴居滋一先生著 定價四・五〇 送料〇・二〇

□奈良女高師に於ける合科學習の先驅者たる先生が新を衒ふことなく、愼重に愼重を重ねて研究さるゝこと廿年、初めて筆を執られたる力作で尋常一、二、三年程度の新教育集、新學級經營法の一權威である

三版

幼稚園の理論及實際

奈良女高師 幼稚園主事 森川正雄先生著 定價三・〇〇 送料〇・一八

□奈良女高師の勅任教授兼附屬幼稚園主事たる先生が、幼稚園の理論及實際を說かれた本邦唯一の書物である。

□內外の實際、古今の理論委しくこの一卷に收められてゐる

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌

（直接註文一手取扱） 大阪市東區上本町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

大好評・忽八版

各科學習指導案實例集

奈良女子高等師範學校の執筆先生御芳名

（奈良）

教授 神戸伊三郎
教諭 幾尾純
教諭 仲本三二
教諭 横井曹一
教諭 掛井弘
同導 山路兵一
同導 河野伊三郎
同導 大浦茂樹
同導 秋田喜三郎
助教諭 野中吉光
助教諭 塚本清
助教諭 鶴居滋一
同導 川口英明
助教諭 組父江照
同導 池田こぎく
奈女師 岡本清德
同導 清水甚吾

（東京）

東京女子高等師範學校の執筆先生御芳名

教諭 山形寛
同導 山內俊夫
同導 吉谷義弘
同導 田代順之助
同導 五味髓
同導 村山貞雄
同導 齋藤與
同導 岩下俊
同導 波多野完治
同導 高橋貞一
同導 高尾亨
同導 奥田良三
同導 坂本豐
同導 朝倉晃
同導 野村芳兵衛
同導 峯地光重
同導 小出浩平
同導 垣內松三
同導 寺田寅彦
同導 谷本英一

東京兒童の村小學校

執筆先生御芳名
主事 志垣寛

（科目）奈良東京共各科に及ぶ

合科 地理科
生活科 理科
修身科 圖畫科
讀方科 唱歌科
綴方科 體操科
書方科 裁縫科
算術科 手工科
歷史科 家事科

◎教授が學習に鍵と共に教案も又學習指導案と變つた。本書は三十八先生の各得意とされる方面の學習指導案實例集である

菊版 六八〇頁
箱入美本
定價三圓五十錢
送料廿二錢

發行所 東京 大阪 奈良 東洋圖書株式合資會社（直接註文一手取扱） 大阪市東區上本町一丁目 振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

八版 奈良女高師訓導 野中吉光先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

修身學習の根本と其の實際

□根柢を近代の倫理に置き生活本位兒童本位に實生活に觸れた修身學習の大記錄である。□私の修身教育法は傳統的な教授法から得たものでない。惱みに惱んだ實際修身教育の間に築き上げた方法とは先生の言である。

五版 奈良女高師訓導 秋山喜三郎先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

國語讀本の縱斷的研究

□完成された國語讀本全十二卷を縱斷的に研究し、其精神、其美點其長所を鑑賞的に研究されたる讀方學習指導者に必須の書である。□國語學習指導の根本に讀本研究にあるとの見界から形式內容共丹念に研究されてゐる。

五版 奈良女高師訓導 河野伊三郎先生著 定價二・八〇 送料〇・一八

國語學習上の諸問題と其の解答

□凡そ國語學習上の問題となるべきあらゆる問題について多年研究された二千有餘の問題を精選して一書とされた稀に見る實際中の實際篇である。下・中・上學年、形式內容取扱上、各方面に亘つた具體事例集である

八版 奈良女高師訓導 山路兵一先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

讀方學習活動の實際とその說明

□先生が讀本中の各種文章を學習指導された實際を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもので兒童學習力伸展の有樣は、手に取るが如く明かにされてゐる。文章面白く不知不識の間に讀方學習指導の眞髓を掴み得る。

四版 奈良女高師訓導 山路兵一先生著 定價二・〇〇 送料〇・一六

綴方の自由教育

□分解分析を旨とせず、生活其のものに卽して建說された新しき綴り方學習指導法で、學習法の原則の上に築かれた自由綴方法である。著書多年の黑索を、兒童の伸びて行く事實を借りて巧に表現されてゐる。

四版 奈良女高師訓導 岡本清德先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

硬毛併用 新しい書方學習法

□鉛筆、ペン、毛筆を併用し、巧みに現敎科書との連絡を取り、專門書道に走らず、何處までも實際的、活用的なる點に於て類例なき良書。確に迷へる書方敎授界に取つて一の羅針盤となり書方敎授研究者の好伴侶

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文一手取扱） 大阪市東區上本町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

東洋圖書の教育書

重版 奈良女師訓導 岡本清德先生編 尋一用二錢 尋二用三錢（見本進呈）

鉛筆書方練習帖

□特徵（一）安價（二）頁數多い（三）繪表紙（四）基本・練習・應用文字を別つ（五）手本文字、渡書文字を青色となす（六）題意練習、視爲、聽寫、自運の欄を置く（七）書方手本、國語讀本と連絡を取つた優良書である

四版 奈良女高師訓導 塚本清先生著 定價四・八〇 送料〇・二〇

最新算術學習指導法

□メートル法、實驗實例、空間敎授の取扱、代表的取扱等の新問題を初め算術心理など他書に求め得ない新方面まで開拓されてゐる□著者は頭腦明晰、博學を以て聞え徹底的意見と、指導方法の妙とを有する新人である

六版 奈良女高師教諭 栫井弘先生著 定價二・五〇 送料〇・一六

國史學習の根本及其の實際

□學習主義に基き多年研究された體驗より歸納された獨特の國史學習法を詳述されてゐる。□講演式、注入式、舊敎授法を捨てゝ創作的學習法を樹立されて既に刻々効を收めつゝある實際的記錄である。

新刊 奈良女高師訓導 清水甚吾先生著 體驗に基づく 價三・五〇 送料〇・一六

地理學習指導の實際

□著者が福岡師範以來二十年の間專ら研究されたる地理敎授を經として最近研究されたる學習法を緯として、その蘊蓄を披瀝される名著である。□地理と算術とは著者の最も得意とされる所で定評あるものである。

四版 奈良女高師訓導 大浦茂樹先生著 定價三・五〇 送料〇・一八

理科學習指導實錄

□學習主義に基き理論と實際な巧に取合せ、實際の立場から理論を顧み、理論に基いて實際を眺めた穩健着實の實際的著書である□月並の問題を他書に讓り觸れられる點のみを力說された良書である。

四版 奈良女高師教諭 横井曹一先生著 定價一・五〇 送料〇・〇八

兒童藝術 粘土彫塑と木彫

□學習主義に基く兒童生活の立體的表現なる手工指導の新指針である。手工教育の根本的改革の叫であり否先驅的實際的記錄である。兒童の作品、著者の作品など數多寫眞を以て載せられてゐる。

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
（直接註文一手取扱） 大阪市東區上本町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

教育書は東洋圖書

十三版

私の唱歌教授

奈良女高師教諭　幾尾純先生著
定價二・五〇　送料〇・一六

□我國唱歌教授界の第一人者を以て誰もが許す幾尾先生の唯一無二の力作は卽ち本書である。□御創始の本譜教授法、獨特の**タクト**法、新しき作曲指導法等悉く寫眞、凸版を以て説明されてゐる。

重版

幾尾式カード

奈良女高師教諭　幾尾純先生編
定價〇・四五　送料〇・〇五

□一名本譜**ヨメール**と稱し、本譜の讀譜力、記譜力養成の眞**カード**である。
□幾尾式唱歌教授の秘訣は、本書であつて、唱歌教授成功への鍵である。

重版

教師用

奈良女高師教諭　幾尾純先生編
定價〇・六〇　送料〇・〇六

□本書は第一に**兒童作曲法**を載せて平易に其の手解きをされてゐる。□第二に先生の教へ子の手になる**兒童作曲模範集**を載せてゐる。□第三に「本譜練習幾尾式**カード**」を以て參考に載せてある。

四版

體育學習の實際

奈良女高師訓導　川口英明先生著
定價二・六〇　送料〇・一八

□舊來の體操を體育と改稱して其の範圍を擴め受動式の教授を發動的の學習となし、一齊的劃一的のものなりしを個別的に兒童本位に迄進めて獨自學習を主義に基く體育學習の實際の新設した、學習の新生面である。

四版

教育ダンス

奈良女高師助教授　內田トハ　御薙政重兩先生共著
定價一・〇〇　送料〇・一八

□尋常一から高女まで五十七種、寫眞凸版百餘を挿入して懇切に說明し樂譜三十餘葉を添へてある。□種類の多いダンスの中で獨りこの教育ダンスのみが學校に取入れられ且生涯實行さるべきものである。

三版

體育としての薙刀

奈良女高師教師　新井つた女史著
定價二・五〇　送料〇・一六

□長刀の開祖が其眞髓を記錄されたものである。□最も困難なる形の說明に百五十有餘の寫眞を用ひ誰人にも其の要領を會得し得る樣にされてゐる。□畏も皇后陛下の台覽を賜ひたる鏡心流薙刀

東京・大阪　東洋圖書株式合資會社　發兌
（直接註文一手取扱）　大阪市東區上本町一丁目・振替口座大阪三九五五六番

263
115

終